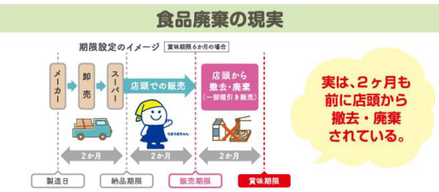
SDGs新聞	ブックオフグループホールディングス株式会社
食品ロスと花の廃棄ロスを削減	

SDGsラジオを読んでみよう！

賞味期限が近づいてしまったから。季節外れになってしまったから。
そういった理由で店頭から下げられ、「まだ食べられるのに捨てられている食品」が、日本では年間約523万トンもあり、一人あたりが毎日、お茶碗約1杯分を捨てている計算になります。
そこで、本や洋服、おもちゃ、スポーツ用品などの買取・販売を行っているブックオフグループでは、この「行き場をなくした食品」を販売するオンラインショップ「フードレコ」を運営しています。また他にもブックオフグループでは、大きさや形が原因で廃棄される予定だった「お花」を「プラスフラワー」という名前で、一部の店舗で販売しているんですよ。
食品を安く買って、おいしく食べて、食品ロスを減らしお花を救って、キレイに飾って、モノの命を延ばすことに貢献。
人も、地球もうれしいこのアクションにみなさんも参加してみませんか？

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



画像参照：食品廃棄の現実
（ブックオフ「フードレコ」楽天市場店HPより）

画像参照：ブックオフでの「プラスフラワー」
販売風景（ブックオフ公式HPより）

食品ロス（フードロス）とは、「まだ食べられるのに廃棄される食品のこと」です。農林水産省によると、日本での一年間の食品ロスは約523万トン（令和3年度）で、これは国民一人あたりでは約114g（お茶碗約1杯分）の食品が毎日廃棄されている計算です。特に日本人は、世界的に見て「鮮度」を重視している傾向があり、スーパーなどで販売されている食品は、賞味期限の3分の1を過ぎたあたりで、店頭から順次撤去・廃棄していくという慣習があります。この「まだ食べられるのに行き場を失ってしまった食品」の有効活用が、食品ロスの解決にとって重要な課題の一つになっています。

本の買取・販売で有名な「ブックオフ」では、食品ロス問題の解決に少しでも貢献したいという思いから、ECサイト「FOOD ReCO（フードレコ）」を運営しています。フードレコでは、賞味期限が近い、わけあり商品や売れ残った季節商品（お中元・お歳暮など）を、お手頃な価格で販売しています。また、一部のブックオフでは、大きさや形などが原因で規格から外れた花を「プラスフラワー」と名付け、販売しています。これにより、花の廃棄ロスの削減、生産者の支援にもつながり、花を通じて多くの人の心が豊かになるという「笑顔の循環」が生まれています。このようにブックオフは、モノのリユース・リサイクルだけでなく、食品ロスの削減や在庫処分に困っている人への支援を通して、持続可能な社会の実現をめざしています。

キーワード

賞味期限

「おいしく食べられる期限」のことです。未開封で適切に保存すれば、この期限を過ぎても食べられなくなるわけではありません。

ECサイト

インターネットで買い物ができるサイトのことです。ECは「Electronic Commerce」の略で、日本語で「電子商取引」を意味します。

リユース

英語で「再利用」という意味です。使用済みの製品を廃棄せずに繰り返し使うことで、資源のムダづかいやゴミの削減につながります。

対象ゴール

みなさんにできること！

食品ロス・廃棄ロスへの理解をもっと深めて、その削減のために、できることからはじめてみましょう。

おさらい

- 日本での一年間の食品ロスは、国民一人あたり毎日お茶碗約1杯分に相当する。
- スーパー等で販売される食品は、まだ食べられるのに、店頭から撤去・廃棄されている。
- ブックオフでは、賞味期限が近い食品や規格外の花を販売している。

メモ

SDGsラジオ